

藤倉ダム管理橋

ふじくらだむかんりきょう

平成5年8月、「近代化遺産」がわが国ではじめて国の重要文化財に指定された。群馬県松井田町にある煉瓦造りの鉄道アーチ橋群と秋田県の藤倉水源地の水道施設である。

「近代化遺産」は、重要文化財にあらたに設けられた種別で、日本の近代化に貢献した産業・交通および土木構造物や工作物をさしている。これによって近代の土木施設が国の文化財に指定される道が開かれた。

藤倉ダムは、明治44年（1911）8月に完成した東北地方最古の都市専用の上水道ダムであり、ダム式の水道施設としては、長崎・神戸について3番目に古い。堤頂の長さ55.1m、堤高は16.3mあり、4・5階建てのビルの高さに相当する。

しかし何といても藤倉ダムの魅力は、越流式ダムであることだ。「越流式」というのは、ダムを越えて水が流れることをいう。ダムは水をせき止め、貯留する施設なので、ダムの直下には水の流れないことが多い。藤倉ダムは、越流式ダムだからいつも水が流れている。しかもダムの表面はゴツゴツした自然石の切り石で被覆されているので、日が射しているときは、流れ落ちる水の粒子が、一粒一粒キラキラと躍動する。コンクリート打ち放しのダムと違うところである。

しかしここで強調したいのは、堰堤上にあるトラス橋である。ダムの上にこんな形で橋のかけられているのもめずらしいが、面白いのは、橋の存在がダムを大きく見せていることだ。橋を長年みているので、橋の形を見れば橋の大きさがある程度イメージされる。そのつもりで堰堤上のトラス橋をみるので、ダムは結構大きくみえる。ところが実際現地では橋に近寄ってみると、この橋はダムの管理用に設けられた人道橋なので、意外に小さい。橋を渡るとき、正面の部材に頭がぶつかるような感じがして、ひょいっと頭をさげる。実際には1.8mあるので、よほど背の高い人でないかぎり頭をぶつけることはない。

取り付けられている銘板から、橋は東京石川島造船所（現石川島播磨重工業）で明治44年につくられた曲弦ワーレントラスであることがわかる。橋もまた、竣工当時のままなのである。明治期の鉄道橋は結構残っているが、道路橋やその他の橋になると意外に残っていない。土木学会内にもうけられた歴史的鋼橋調査の小委員会で調べた結果、堰堤上のトラス橋は、わが国に現存する明治期道路橋の10傑に入ることがわかった。橋の記録は、製造元の石川島播磨重工業の社史や業務経歴書にも掲載されていないということも、ひとつの発見であった。

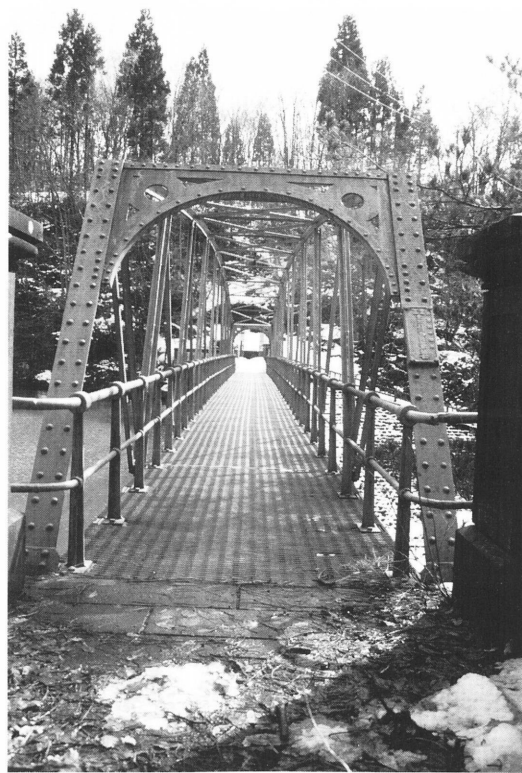
今回の「鉄の橋百選」の調査を機会に、本橋は秋田県水道局によって「藤倉水源地堤上架橋」と正式に命名された。

〔IT〕

竣工年月：明治44年（1911）
 所在地：秋田県秋田市
 河川名：旭川
 橋長・幅員：30.6m（概略）×1.676m（主構中心間）
 径間数・支間長：1×30.48m
 形 式：下路曲弦ワーレントラス



(1:25,000 秋田)



橋門構。橋面は金網のようなグレーチング。



〈1993年3月17日，撮影・共に伊東 孝〉